

地域と「創る」モビリティのデザイン

福島大学 経済経営学類 吉田 樹 ゼミ



オープンデータを活用した公共交通 案内のデジタルサイネージの開発

◆ 学生が企画～開発・維持までを主体的に実施

- ◆ リアルタイムの遅延を反映で、バスを待つストレスを低減させることで、利便性向上に寄与

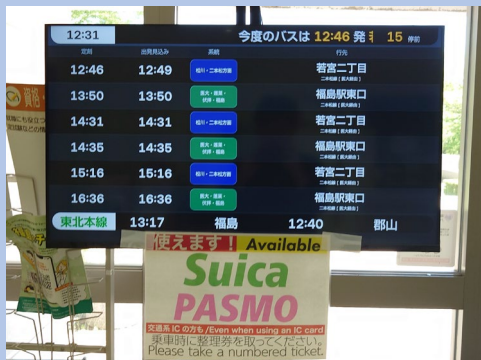


図 学内での設置例

- ◆ 国交省の推奨するフォーマット（GTFS-JP）に準拠した設計のため、高い汎用性を実現
- ◆ 簡潔な操作体系ながら、柔軟な表示が可能
- ◆ 音声機能、鉄道時刻表など、将来の環境変化を見据えた、拡張性を確保
- ◆ 動作の軽量化を図り、安価な端末でも動作が可能であり、格安で導入できる

表 本サイネージの最小構成での費用内訳例

品目	価格
RaspberryPi4 (表示用PC+ストレージ+電源)	12,090円
表示用モニタ (サイズにより変動。55インチの場合)	55,000円
本サイネージ導入費用合計	67,090円

地域間幹線バス「医大経由二本松線」の モビリティ・マネジメント

- ◆ 本学では、鉄道運休時の代替手段が欠如しており、既存バス路線ではのアクセス難により、代替交通として選ばれなかった
- ◆ 県利便増進計画により、ルート改編を実施。大学構内への直接乗り入れ、講義時間に合わせたダイヤ最適化を提案
- ◆ 同事業の効果測定のため、学内の事前・事後調査を主導
- ◆ モビリティ・マネジメントも同時に実施。乗り入れ周知のチラシを学生がデザイン
- ◆ 講義棟前で実際の車両を用いた乗り方教室を開催し、利用方法を案内



図 開催した教室の様子

コミュニティ交通の実証実験(いわき市)

- ◆ 一定の人口規模を持ついわき市の4地区（小名浜、湯本、泉、勿来）の大部分が交通空白地である
- ◆ 乗務員不足により、路線バスの減便・廃止が進行
 - ➡時間的な交通空白の大幅な拡大が背景
- ◆ 地域住民へのアンケートを企画・実施・分析を行い、市に新たなコミュニティ交通の導入の指針を提案
- ◆ 利用実績をわかりやすいOD図に落とし込むことで、利用の濃淡を明確化
- ◆ 実証実験に求められる事項を精査し、報告を行った

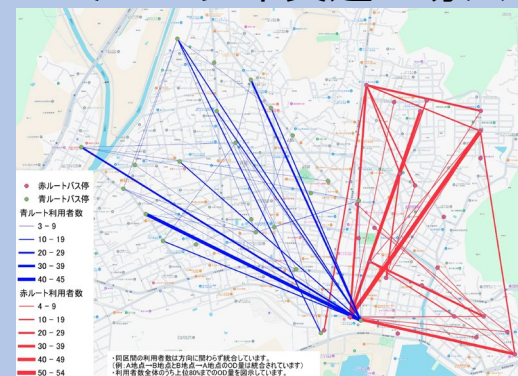


図 実証実験実績のOD図

コミュニティバス利用促進(本宮市)

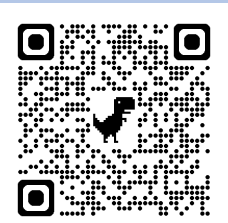
- ◆ 再編後も利用低迷が続くコミュニティバスの利用促進策を主導
- ◆ 独自の「運賃無料デー」を企画。潜在的な需要の発見を意図
- ◆ 家族連れに向けた「宝探しゲーム」を企画、実施。当日は多くの家族連れが参加し、バスの利用者も増



図 イベント開催の様子

これからの活動

- ◆ 山形県米沢市
次期の地域公共交通計画策定に向けた、基礎調査を研究室として実施
 - 専門技術を持つ企業が行うような、実態調査から改善策の提案を学生が担当
- ◆ 埼玉県和光市
同市コミュニティバス「わこば」における利用実態調査・改善策の検討
- ◆ その他、福島県、会津若松市など多数で継続的に、**地域をより良くする公共交通・観光策を「創る」ための調査・提案・実装プロジェクトを推進します。**



ゼミHP QRコード